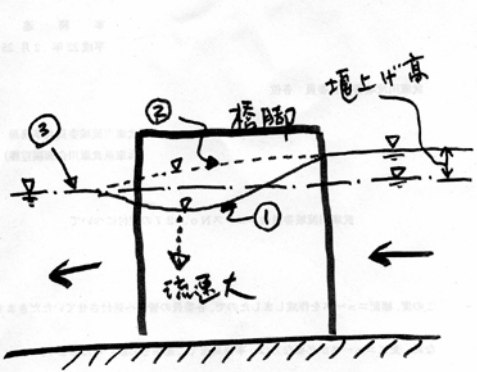


武庫川水系河川整備計画（原案）等に対する委員意見の整理表【質問】

項目 主な内容	委員からの意見（意見書）		
	番号	質問	委員名
①整備計画（原案）、総合治水推進計画（県原案）の位置づけに関すること			
—			
②整備目標に関すること			
整備目標	1	第 57 回委員会質問番号 6 関係：回答が不完全な事項 〈戦後最大洪水の〉ピーク流量の計算値がある以上、ピーク水位の計算値を示せる筈（これは審議のために必要なデータであり、計画書に書き込めとの要求ではない）。	奥西委員
整備目標と整備期間	2	第 5 7 回委員会質問番号 13 関係：回答が不完全な事項 整備期間は工事内容と予算及び工事行程を総合判断して決めるのであれば、総合判断の内容が示されるべきである。総合判断とは理由なく判断するという意味ではない。	奥西委員
整備期間	3	第 57 回委員会質問番号 15 関係：回答が不完全な事項 〈原案 P53 表 4. 1. 3 河川整備計画の実施概要に概略的なタイムスケジュールを記載しているということについて〉下流部分についてしか示されていない。	奥西委員
③流量配分等に関すること			
河道掘削	4	<p>（河床洗掘に関して） （第 5 6 回流域委員会議事録（案） 1 2 ページ下段に関して） 4 3 号線橋梁橋脚の間隔は広いから 4 m 程の流速が直接ぶつかり深掘れする。一方、阪神鉄橋橋脚は間隔が狭いため、堰上げが起これり流速が遅く（堰上げの部分はその通り）洗掘が起これりにくい。このような記述に対し、堰上げがある場合は、図の①の不等流の水面形状となるのが開水路水理学の教えるところで、説明者は②の曲線を想定しているのではないか。結果として、橋脚が密の方が橋脚の下流部で流速や渦が大きくなり洗掘が起これりやすくなる筈である。従って阪神鉄橋で深掘れが起これらないのは別の理由（河床が洗掘されにくい状態など）があると考えべきではないか。なお図の③は、橋脚のない場合の（疑似）等流水面である。</p> 	村岡委員
河道掘削	5	<p>（地下水への影響について） （第 5 6 回委員会議事録（案）、 1 8 ページ上段の記述に関して）川の近くでは地下水位が 1 ～ 2 m 低下するとの予測であるが、このことにより地盤の液状化に対し安全の方向に働くとみてよいか。（注：神戸大震災のとき、淀川下流部で堤防の内側で大規模な液状化現象がみられた。）また、この地下水位低下は堤防</p>	村岡委員

項目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			の強度あるいは安全性にどのような影響を及ぼすか。	
下流部掘込区間	6	第 57 回委員会質問番号 32 関係：回答が不完全な事項 「同程度」とは「同一」と同義なのか、あるいはどのように異なるのか、回答がない。	奥西委員	
中流部及び上流部	7	第 57 回委員会質問番号 38 関係：回答が不完全な事項 〈上流部の河道分担流量を原案 P38③～④に記載している、との回答であったが〉本流については示されていない。	奥西委員	
堤防強化	8	第 57 回委員会質問番号 47 関係：回答が不完全な事項 〈河道満杯まで水位がきた場合の築堤区間の現況流下能力についての質問は〉越水しない範囲の最大流量を聞いているのである。	奥西委員	
既存ダムの活用	9	流域各市の連携の進展状況（ネットワーク化）。	伊藤委員	
既存ダムの活用	10	既存ダムの治水利用の費用負担は県が負担するのですね。	伊藤委員	
既存ダムの活用	11	（第 57 回資料 3 p.1 検討項目） 「給水制限や給水停止等の社会活動に支障を生じさせない」ことは絶対的な条件か。ここで扱っている既存ダムの治水への利活用は、洪水被害を救うための行為であり、リスクを分け合う、すなわち下流の洪水被害リスクを軽減するために、応分の（渇水による）利水リスクを背負うことである。この概念は今後の総合治水のあり方として必要ではないか。それを武庫川で先導的に行うことが流域住民の義務ではないか。利水リスクのあり方を根本的に考え直す必要があり、武庫川においては今がチャンスではないか。河川管理者の見解を問う。	村岡委員	
既存ダムの活用	12	（第 57 回資料 3 p.10 図 3.5） ミドリ色○からアオ色○の間の河川巡視・関係機関連絡の開始時間は、キ色○からミドリ色○の方へ前倒しできる場合があるのではないか。そうなれば一層予備放流の効果が上がる。	村岡委員	
既存ダムの活用	13	（第 57 回資料 3 p.13 表 3.4） 第 57 回流域委員会の席で、「水位回復日数を何らかの分かり易い利水リスク指標で表すことはできないか」と質問したが、「難しい」との回答であった。そうであるなら、過去の実績として対応された給水制限・給水停止のあった時の回復日数と対応の記録を、少なくとも過去 20 年間について提示されたい。同様に、回復日数は生じたが、対応をしなかった例についても提示されたい。これは青野ダム、丸山ダム、千苺ダムの全てについて願います。	村岡委員	
既存ダムの活用	14	提示された効果量と平成 16 年 23 号台風洪水の効果量のちがいを説明してもらいたい。	佐々木委員	
既存ダムの活用	15	余力については、丸山ダムは運用実態で余力を評価しているが、尼崎市と千苺ダムは水道計画で評価している。いずれも低い側の数値をとっているようであるが、実態で評価すべきではないのか。丸山ダムの 37 万 m ³ と 31 万 m ³ の差異はこの辺りからも出ているのではないか	佐々木委員	
既存ダムの活用（青野ダム）	16	青野ダムのこれまでの利水状況と今後の予想、県営三田浄水場のこれまでの利水状況と今後の予想。	伊藤委員	
既存ダムの活用（青野ダム）	17	（第 57 回資料 3 p.8 ①最大放流量） 「高水敷が浸水しない」という条件は確かに高水敷にいる人に対して（人工増水によって）危険ではある。しかしその限界流量 100 m ³ /s を以てダムへの流入量 100 m ³ /s に対応させるのはいかがなものか。限界流量を大きく取れば（ここでは 100	村岡委員	

項目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			m ³ /s 以上) 考え方が変わる。低水路幅の拡幅が可能なら、限界流量を大きく取ることができる。あるいは、警報機能を高度化すれば、高水敷浸水にこだわる必要がない、と思うが如何か。	
既存ダムの活用 (青野ダム)	18	(第 57 回資料 3 p.12 (2) 検討結果) 「表 3. 4 より、確実に確保できる予備放流可能量は 120 万 m ³ が上限である」とあるが、この「上限」の考え方は？ 回復日数が 2～3 日であるということを目安にしたのか。	村岡委員	
既存ダムの活用 (青野ダム)	19	平成 16 年の本川への流入量 210 m ³ /s の評価と検証 ⇒戦後最大洪水を前提に行なわれる今期の整備計画実施達成後の 40 万 m ³ の洪水調節容量アップは、平成 16 年型の洪水が流れた場合、平成 16 年当時の本川流入量 210 m ³ /s はどこまで軽減することになるのか。	佐々木委員	
既存ダムの活用 (青野ダム)	20	母子大池を利水の予備タンクとして活用する可能性はないのか。その如何によっては青野ダムの予備放流・洪水期満水位に対する考え方や水源余力を変えることが可能となる。 ・母子大池に水源余力がある場合、青野ダムの水源余力に貢献したり、予備放流の水位回復への時間考慮や 100%の回復を期待しなくてもよいことにつながるのか。 ・母子大池に水源余力がある場合、洪水期満水位をもう少し下げることが可能にならないのか。	佐々木委員	
既存ダムの活用 (丸山ダム)	21	37 万 m ³ と 31 万 m ³ には 6 万 m ³ もの差がある。既に運用されている洪水調節容量を 37 万 m ³ に決定した根拠が知りたい。	佐々木委員	
既存ダムの活用 (丸山ダム)	22	丸山ダムのシミュレーションでは「ダム周辺の実績降雨量から算出した流量をダムへの実績流入量として代用」とされているが、バッドランドはどのように評価して流入量に反映しているのか。 ←過去に奥西委員が評価	佐々木委員	
既存ダムの活用 (丸山ダム)	23	戦後最大洪水を前提条件にした P.32 検討結果の効果量 4 m ³ /s に対し、かつて県が出した平成 16 年型の効果量 47 m ³ /s との違いを説明してもらいたい。	佐々木委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	24	千苺ダムの治水利用の水位と堰堤、水門、余水吐、上水取水口位置の関係を縦断面で図示して下さい。 堆砂の量と前記縦断面に表示して下さい。	伊藤委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	25	(第 57 回資料 3 p.24 ①最大放流量) 「羽束川合流後の武庫川の高水敷は浸水しない」において、この高水敷はどの部分の高水敷をいうのか。下流全区間か。前述 2. の質問と同じく、高水敷浸水という考え方は警報システム等の対応の改善で、予備放流量をもっと大きく取ることはできないのか。	村岡委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	26	(第 57 回資料 3 p.57 (2) 水質悪化) 以下について、見解を示されたい。 ■千苺貯水池における堆砂の状況を明確にし、 ① 堆砂が貯水量に影響を及ぼしているかどうか。 ② 堆砂が水質に影響を及ぼしているかどうか。 ■何らかの影響を与えているとすれば、堆砂を浚渫除去することにどんな効果があるか又はしないのか、浚渫除去に伴う何らかの障害はあるかどうか。浚渫土砂が発生するなら、それは有価資源か、無価資源か、資源循環の立場から述べてほしい。	村岡委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	27	(第 57 回資料 3 p.57 (2) 水質悪化) 新設放流設備（トンネル）からの放流により、現行の水道水の選	村岡委員	

項目	委員からの意見（意見書）			
	主な内容	番号	質問	委員名
			<p>択取水の範囲が減少するという説明であるが、選択取水の位置が一定であればそういうこともあり得る。しかし、トンネルからの放流位置はこれでないといけないというものでもなく、選択取水の位置が従来の位置でないといけないか、改造も可能でないかということも言える。だから、この記述だけで問題点を論議し、結論付けるのはおかしいと思うが、如何が？</p>	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	28	<p>(第 57 回資料 3 p.57 (2) 水質悪化)</p> <p>神戸市は選択取水で水質が悪化するということを問題にしているが、それ以前の問題として、千苺貯水池の水質の改善について問題にすべきである。富栄養化が依然として発現し、COD も季節を通じて環境基準を満足しているわけでない。湖内のエアレーションその他で水質問題（富栄養化を含め）を解決しようとするのはいかがなものか。そういった改善方策は水道料金の値上げに結びつく可能性がある。貯水池に流入する汚濁負荷のあり方を含め、神戸市の対応を聞きたい。</p>	村岡委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	29	<p>(第 57 回資料 3 p.59 表中)</p> <p>浄水場の高度処理というのは、水質基準を満足する限り、義務づけられていないと思うが、これをやるべきであるのかそうでないのか、またそれに関わる費用分担について、県および神戸市の見解を聞きたい。</p>	村岡委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	30	<p>最大放流量 360 m³/s に対する平成 16 年の 790 m³/s(2 倍以上)の流入の違い、そして整備計画で提示された効果量 472 m³/s が効いた場合に 790 m³/s はどこまで軽減されるのかについて説明してもらいたい。</p>	佐々木委員	
既存ダムの活用 (千苺ダム)	31	<p>千苺貯水池の集水面積は武庫川流域の約 5 分の 1 に相応する、と聞いている。整備計画にあるトンネル 4 本の対象流量 385m³/s×4 =1,540 m³/s となる。これを現状の最大放流能力とを合算するとダム堤体が安全に保たれるのか。このダムは築後 90 年になる。平成 21 年 2 月 23 日経済産業省「近代化産業遺産」に認定されている。今後のダムの改築についての配慮はいかがだろうか。</p>	法西委員	
④減災対策に関すること				
—				
⑤環境対策に関すること				
—				
⑥推進体制に関すること				
フォローアップ組織	32	<p>整備計画における潮止堰、床止堰の撤去、改修にあたり、施工前のモニタリング調査と工事实施の際には、生物の 2 原則、生物の多様性の保護・保全、生態系の保全、多自然工法を十分に考慮するようお願いしたい。それを踏まえて、フォローアップの仕組みはどのような位置づけで、どのように対応されるのか。住民の参画と協働はどのように配慮されるのか。この一つの具体例でお示しいただきたい。</p>	法西委員	
⑦その他				
—				